



短期
連載
企画

ゲーム分析ソフトの活かし方

Vol.1：立命館守山高校編

「何でもできる」スタイルを構築するための

ゲーム分析

ゲーム分析の重要性が叫ばれて久しい。

今やプロのみならず育成年代への普及も進んでおり、自チームや相手チームの研究・分析に役立てられている。

その中で、日本のRUN.EDGE社が開発し、Jクラブや海外クラブも導入する

映像編集・分析ソフト『FL-UX』に注目した。

今号から育成年代の各チームを取り材した上で、活用の実態をお届けしたい。

第1回は滋賀県にある高校で、3年前からゲーム分析を積極的に取り入れている立命館守山高校を訪ねた。

取材・構成 鈴木智之 写真 鈴木智之



こちらの『FL-UX』の画面映像はRUN.EDGE が作成した You Tubeからキャプチャーしたもの

GOOD BENEFITS #1

担当を振り分けることで
当事者意識が芽生える

サッカーが高度に戦術化している現在、必要性が増しているのが「ゲーム分析」だ。

プロサッカーは言うに及ばず、アマチュアやユース年代、果てはジュニア年代まで、独自に試合や練習の映像を撮影し、トレーニングの振り返り、自チームの分析、対戦相手の分析など、チーム強化や試合でのパフォーマンス向上に役立てられている。

滋賀県にある立命館守山高校も、ゲーム分析を積極的に行なつているチームの一つだ。

日本の企業であるRUN.EDGE社が開発した『FL-UX』という、Jクラブや海外クラブも導入している映像編集・分析ソフトを使い、自チームや対戦相手の分析に活用している。

立命館守山高校サッカー部を15年にわたって率いる吉田貴彦監督は、「3年前から映像分析をチーム強化に取り入れています」と話す。

「以前は言葉で伝えることが多かつたのですが、言葉だけだと、どうしても齟齬が出ててしまいます。対戦相手の特徴を伝えるときも、言葉では限界があると感じ、映像で伝えたいと思つていました」（吉田監督）

昨今、さまざまな映像編集・分析ソフトがあるが、「FLI-UFX」を採用したのは「映像編集がしゃすかつたのと、映像の上に文字を載せたり、スペースを描いたりするのが簡単にできたから」（吉田監督）だという。

立命館守山サッカー部は、選手それぞれがチーム運営に関わる係に就いており、その中に「分析係」がある。

彼らを中心に、自チーム分析、相手チーム分析、セットプレー分析の3つに分かれており、それが対戦相手の映像を見てポイントを抽出し、部員の前でプレゼンする。

吉田監督は「FLI-UFX」は操作が簡単で映像の共有もすぐにできるので、編集を選手たちに任せられるようになつた」と話す。

「ボールの奪い方にしても、プレゼンする人と聞いている人で意見をぶつけて、納得した形で進めていくので、試合中のコミュニケーションもとりやすくなりました」

（橋力優キャブテン）



立命館守山では「分析係」を中心に分析した内容を部員の前でプレゼンしている。分析力や理解力を深めるために一役買っている

映像を見ておいてください」と部員にメッセージで流すと、好きなときに見て共有できるので、頻繁に集合する必要がなく、楽になりました」

立命館守山は一人一台所有するiPadを使って授業をしており、

iPadリテラシーが高いところも映像編集・分析との親和性につながっているのだろう。

それでは、実際にどのように映像を編集し、分析しているのだろうか？ ある試合に向けた準備を紹介したい。

この日はリーグ戦を翌日に控え、練習前に45分ほど、相手チームの分析と攻略法を選手がプレゼンしていた。

「相手のセンターバックは前方のボールに寄りがちで、背後のスペースが空く。2列目の選手は裏への飛び出しを狙つていこう」

「ボールの奪い方についても、プレゼンする人と聞いている人で意見をぶつけて、納得した形で進めていくので、試合中のコミュニケーションもとりやすくなりました」

（橋力優キャブテン）

特徴的なのは、選手一人がプレゼンするのではなく、ポイントごとに担当が変わり、複数名で担当することだ。

「相手の最終ラインはバラバラなので、背後へのロングボールを狙える。跳ね返されたときに、全員がファーストボールに行つてしまふと、セカンドボールに行く人が少なくなるので、試合前に話し合って、誰が行くかを決めておこう」ほかにも、次のようによつて映像を提示することもある。

「チームで取り組んでいる、片方のサイドに選手を集めて相手を崩してから、クロスではなくパスで攻略する攻撃の良い例があるので見てください」と伝えた上で、片持ち込む場面を紹介。その際、解説や改善方法を合わせて伝えた。

「狭い攻撃のデメリットは、ファーサイドに人がいないこと。ファーサイドの選手がゴール前に入り込むと、得点の可能性が上がると思う」

分析にかかる負担が減るとともに、さまざまな視点での分析ができる。当事者意識が芽生え、ピッチでのプレーに活かすことができるものメリットだ。

映像を共有することで意見交換の質が向上

選手たちが展開する、的を射たプレゼンの様子を見ながら、吉田監督は「私が言うことは何もありません」と冗談めかして言う。

ただ、最初からここまで

リティーでプレゼンができたわけではないようだ。

「彼ら主体で分析を始めた頃は、映像の垂れ流しでした。私が伝えすぎて、選手たちが消化しきれず、試合で表現できないことがあります」（吉田監督）

そのような時期を経て、吉田監督は「伝え方が進化している」と話す。

「最初に『こういうポイントで映像を見てください』と言つてから伝えるようになつてきました。そこは学校の教育力もあります。普

段からディスカッションやプレゼンの授業があるので、選手たちは慣れています」

慣れています

選手たちはどう感じているのだろうか？

キャプテンの橋力優選手に聞くと、次のような答えが返ってきた。

「事前情報がないときは、試合開始5分で相手を見て、どう対応するかを考えてプレーしていたのですが、映像分析を活用するようになつてから、試合に入りやすくなりました」

FWとしてプレーする橋選手が気になるのが、相手の最終ラインだ。最終ラインからビルドアップしていくチームであれば、分析チークがポイントを抽出し、ミーティングで話し合う。

「ビルドアップの映像を見て、『ここで奪いに行ける』とチームでイメージを共有した結果、うまくいくことがあります。そこから得点につながることもありました」

映像分析は、チームとしてのパフォーマンス向上に加え、選手個々のレベルアップにも寄与しています

る。自チーム、相手チームを問わずに分析する視点で試合を見ることで、サッカーの勉強になるからだ。

橋キャプテンは言う。

「相手のシステムは3バック、4バック、2トップ、3トップなどいくつかありますが、それに対抗する術を見つける中で、サッカー

「たとえば、ボールの奪い方にしても、プレゼンする人と聞いている人で意見をぶつけて、納得した形で進めていくので、試合中のコミュニケーションもとりやすくなりました」（橋キャプテン）

分析してプレーすれば理解をより深められる

橋キャプテンによると、立命館守山は「自分たちのスタイルを持ちながら、相手に合わせて柔軟に変えられるところがストロングボイント」だと言う。

「システムは『4-4-2』で、相手が3バックのときはフオワードが縦関係になつて対応するなど、臨機応変に変えていきます」

短期連載企画

ゲーム分析ソフトの活かし方

Vol.1：立命館守山高校編



登場者PROFILE
吉田貴彦（よしだ たかひこ）／1971年11月13日生まれ、大阪府出身。小学4年生のときにサッカーを始め、高槻市立阿武野中学校のときに全国大会出場。高槻南高校では全国高校総体に出場した。立命館大学在籍時には全日本大学サッカー選手権大会と総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントを経験。大学卒業後、桐生第一高校（群馬）で3年、金光大阪高校で10年指導した。その後、立命館守山高校に赴任して今年で指導15年目を迎える。JFA C級ライセンスを持つ

－Qも上がっているのかなと思います」
もとに試合に臨むので、試合前や発になり、ディスカッションの質が向上するのも、映像分析のメリットだ。

選手主体で分析し、共通意識を

－Qも上がっているのかなと思います



ゲーム分析ソフトの活かし方 Vol.1：立命館守山高校編

短期連載企画

できるようにしたい」と話し、そ
の中で「スピード」を重視してい
ると教えてくれた。

「サッカーのスタイルには、主に
うまさ、強さ、速さの3つがあります。滋賀県には野洲高校という
うまいチームがあり、草津東高校
という強いチームがあります。我
々がそれらの高校と戦っていく際
に何を特長にすれば良いんだろう
と考えたときに、ほかの学校とは
違うもの、スピードに行き着きま
した。スピードを軸に、何でもで
きるスタイルを目指しています」

（吉田監督）

相手の出方を事前に知ることで、
「何でもできる」ための対応策を
用意することができる。それも映
像分析のメリットだろう。

橋キヤブテンは「分析を担当し
ている選手が、試合に出てプレー
することで、理解がより深まって
います」と話す。

「映像で、相手の左サイドバック
が右利きなのを知っていれば、左
足のほうに追い込んでミスを誘つ
たり、ボールを奪つたりするブレ
ークを狙えるので、映像分析が試合

のプレーに活きる場面が多いと感
じています」

立命館守山は今年（2022年）、

滋賀県1部リーグで上位を争つた。
吉田監督は「中学生が高校を選ぶ
際は、どのカテゴリーのリーグ戦
を戦っているのかわかります。ラ
ンキングがつけられているような
ものなので、リーグ戦の重要性が
高まっています」と語る。リーグ
戦は原則ホーム＆アウェーの2試
合があるので、映像が入手しやすく、
分析しやすい。

チーム強化、選手育成の上でも、
相手を分析して臨み、最初の試合
で出た課題を2試合目に活かす

『P D C Aサイクル』にすること
で、質の高いトレーニング効果を
得られるだろう。

橋キヤブテンによると、チーム
の目標は「滋賀県のナンバーワン
をとること」だという。その先に
は当然、全国大会での勝利を見据
えている。

立守サッカーの歴史に新たなペ
ージを加えるために、ピッチ内外
で質の高い取り組みを行ない、強
化を進めていく。